

「仕事ができる社員、できない社員」という本からです
女性社員に好かれる人 「優しく」するより、「信頼」してやれ

私は、相手が女性社員だからと特に気にしたことはありません。

優秀で仕事をきちんとこなしてくれると信用しています。要求すべきことは、臆することなく要求してくるのも女性のいいところです。

では、女性社員はどのような目で周りを見ているのでしょうか。私の観察した限りで申し上げれば、世のビジネスウーマンたちは、こちらが信頼を込めて接していれば、こちらに対しても必然そういった扱いをしてくれるものです。その一方で、女性は上司なり同僚なりに対して、相手がすべきことを明確にわかっていて、自分の領分をきちんとこなしていない場合は、ストレートに不満を向けるようです。そういう意味では女性は自分にも相手にも厳しく、それはとてもいいことであると思います。仕事というのは、上司であろうと、部下であろうと、同僚であろうと、お互い厳しくなければいけません。厳しくあることが正しいのであり、そうあるべきと判断して受け入れる姿勢を持つべきです。

先にも紹介しましたが、日本経済新聞の記事によると 2011 年新卒女性の大半は、ワーク・ライフ・バランスを非常に重視しているというアンケート結果が出ています。ワーク・ライフ・バランスを意識できない人は、仕事のできない人だと私は思っています。

逆に仕事ができる人でないと、ワーク・ライフ・バランスは取れないということも真です。仕事とそれ以外の生活のバランスが取れるということは、要するこれまで説明してきたような段取り力や集中力、仕事のデッドラインを引けるかといったところの延長線上にあるものだからです。たとえば、仕事に自主的に「がんばるタイム」を取り入れたり、始業時刻より前に出社したりすることで集中力を上げるなど、自分の考えを持って仕事に向かうことが重要です。周りに流され、仕事が終わらず残業するようでは仕事ができる人にはなれません。そして女性の多くは、「ワーク・ライフ・バランスが取れる人＝仕事のできる人」という図式を本能的に知っています。ですから、「残業すべき」とか「上司より先に帰るとは何事だ」と、それに逆行するような主張をする男性は絶対に嫌われるのです。女性にしてみれば、「こんな簡単なこともわからないなんて」というわけです。

つるはしで仕事をするような昔の仕事の仕方を推奨していると、女性は辞めていかざるを得なくなりますし、会社や上司への不満も増えるでしょう。会社はたとえば「ノー残業デー」を積極的に導入するなどしていかなければ、これからの時代、女性社員にそっぽを向かれる可能性もあります。実際に「ノー残業デー」を導入してみて気づいたのは、ダラダラと残業したがるのは男性に多いのです。女性はそここのところは割り切って定時でさっさと帰っていきます。相手が女性だからといって、遠慮する必要も媚びる必要もなく、ただ当たり前に人として向き合っていけば問題はありません。そのうえで、女性ならではのいいところ、正しいところを正當に認め、積極的に取り入れていけば、こちらにもいい影響を与えてくれるものです。そうした柔軟な姿勢を持てるのも、有能な社員、一流のリーダーには必要な資質といえます。

女性のいいところはどこだと言っていますか？

()